金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報

April. 2010 No.17

編集・発行／金蘭会東京支部（大阪府立大手前高等学校同窓会）
事務室／阪本弁護士事務所内
〒104-0061　東京都中央区銀座 6-7-2　みつわビル 3F
ホームページ／ www4.airnet.ne.jp/t-kinran/

学年だより

還らず　変わらず

阪本 清（昭和42年卒）

一人が全てをなしたのではない。総体として良く学び良く遊びそして政治的であった四二年卒。反抗すらできずに皆還暦を通過した。学び続ける者はそれを職とする者のみ、遊びと言うにはどれも貧しく、政治的なるは辻惠ひとり。

今、三田誠広は「僕」を問わず、佐々木幹郎も潰走を詩（うた）はないが、その頃は使おうとはしなかった青春の文字を銀幕の部分天然色にでも遠望せんとて仲間は集う。盆暮れは正確な掛取りのように森本光雄が宴席の世話を焼き、年両三度のゴルフ会を工藤（西村）節子、安田利正が引き受ける。

支部総会の出席は悪いがそれなりの結束もなくもない。外には斜に対しつつ内では赤面している。そんな癖は誰も治っていない。

昔は「西嵐会」と名乗っていました

北村克司（昭和52年卒）

私達の学年も諸先輩方同様、一昨年の六本木ヒルズ・グランドハイアット東京での総会の当番幹事が契機となり、年に二回程度の学年会を開催するようになりました。

私達の学年の東京での会合のはじまりは、大手前を卒業し、大学に進学した頃に遡ります。当時、東京の大学に進学するものはごく少数で、一年道草をしてきた者が合流した頃に、大志（?）を抱いて東京に来た数名で集まるようになりました。当時の自民党の政策集団名をパロディして「西嵐会」と称して、酒場で夢を語り、青臭い議論をしていたのが、思い出されます。

現在は、総会の後に学年会を開催し、大阪からこのために駆けつける仲間もいて、盛り上っています。直近の会合は、昨年の十一月に都内のレストランで開催しました。同級生の皆さん、学年会の名前は「西嵐会」のままでいいですか。

●支部会計報告（平成 20 年度）（平成20年1月1日～12月31日）

収入の部金額（円）		支出の部金額（円）	
前年度繰越	6,697,389	総会補助費	239,560
支部会費	394,000	支部運営費	219,697
（内訳）		（内訳）	
終身会費分	290,000	会議費	10,052
年会費分	104,000	事務所使用料	60,000
		会報印刷代	63,400
雑収入	23,000	通信費	7,160
貯金利息	2,902	HP 費用	22,680
		雑費	56,405
		次期繰越金	6,658,034
合計	7,117,291	合計	7,117,291

●金蘭会東京支部データ●

■会員数		2636 名
女性	1211	45.9%
男性	1425	54.1%
■卒業年代構成		
～大正 15 年	14	0.5%
昭和 2～10 年	86	3.3%
昭和 11～20 年	253	9.9%
昭和 21～30 年	336	12.7%
昭和 31～40 年	659	25.0%
昭和 41～50 年	799	30.3%
昭和 51～63 年	399	15.1%
平成元年～	80	3.1%
教職員	3	0.1%

※数字は 2010（平成 22）年 4 月 8 日現在

Topics/News/Information

●仲間募集…「二子玉会（にこたまかい）」
変貌しつつある東急田園都市線二子玉川駅で、ランチしませんか？ 5 回目となる昨年は 27 名、うち初めての方 6 名、皆勤 4 名でした。今年も 10 月の土日に開催予定です。住所不問、性別不問、年齢不問、思想信条不問です。詳細は竹村まで。

連絡先：竹村　泉（昭和 48 年卒）
TEL：045-984-6362
E mail：426izumi-t@e08.itscom.net

●３行広告、原稿募集
出版本、個展、講演会、講習会、教室などの有料広告や、メンバーズボイス、趣味のコーナー、ペットコーナーの原稿を募集しています。

●ご意見ご感想ほか問い合わせは、
総務・森まで（TEL.03-3829-1548）
または、金蘭会東京支部ホームページへ。
出版本、個展、講演会、講習会、教室などの有料広告や、メンバーズボイス、趣味のコーナー、ペットコーナーの原稿を募集しています。

●金蘭会東京支部ホームページ
http://www4.airnet.ne.jp/t-kinran/
支部の最新情報がご覧になれます。メールアドレス登録もこちらからお願いします。

編集後記

青春の一時期に大手前高女、大手前高校に在籍して、現在大阪を離れた者たちの集まり。無くてもいいけれど、あれば楽しい同窓会誌になればと、加藤啓子さん（昭和 46 年卒）のご協力のもと、今回も皆様にお届けできました。

我家のペット

レオくん（チンチラ）

ウサギでも猫でもなく、げっ歯類チンチラ科のチンチラです。主食は乾燥した牧草の、草食系男子レオくん。アンデス高原原産なので寒さには強いようですが、高温多湿が苦手でエアコンが必要です。

徳野千鶴子（昭和 50 年卒）

エルザちゃん

その大きな足がライオンの子の様だったのでエルザ（ＥＬＳＡ）と命名しました。Elegant な姿をし、Lovely で Sweet で Active な 性格の我が家のエンジェルです。

佐藤真理（昭和 50 年卒）

如水の交わりより金蘭の契り

第85回金蘭会東京支部総会は、7月12日、皇居そば一ツ橋の如水会館で開催されました。参加者は181名。大阪から来賓としてご出席いただいた、新任の安橋金蘭会会長および原田大手前高校校長先生はいずれも初参加でした。また今年新しく大学生になられた新人会員も5名参加いただきました。

懇親会のメインイベントは、幹事学年と同じ昭和53年卒の中村扶実さんのコンサート。大阪を中心に幅広く活躍されている中村さんの歌声は参加者を魅了しました。

会場となった如水会館は、一橋大学の創設者渋沢栄一が、『礼記』の一節「君子交淡如水」から命名したそうです。水のように淡い君子の交わりよりも固い、金蘭の契りを今年も確認できた一日でした。

30年目の当番幹事は良いタイミング

青柳 登・林 俊宏（昭和53年卒）

第85回総会は、本格的な暑さが始まる前の7月12日に竹橋の如水会館にて催されました。

前年のリーマンショックに端を発する不況の影響で参加人数の減少が懸念されましたが、ふたを開けてみると、学生会員を含め例年と変わらず181名の方の参加を頂く盛況ぶりでした。

フランス料理の着席正餐形式で、ゲストに53年卒業生のシャンソン歌手中村扶実さんをお迎えして、欧米のスタンダードナンバーや昨年大阪で催された水都２００９のイベント用に中村さんが作詞・作曲したＭＩＯ等の曲を披露してもらい、大変ご好評を頂きました。

思えば、3年前に「卒業30年目の学年が当番幹事を引継ぎ、総会の準備をする」ことを知らされ、当番幹事代表を引き受けはしたものの、それまで同期とは連絡を取った事もない状態でとても不安な気持ちでした。しかし、当番幹事募集を兼ねた同期会を開いたところ、すぐに4人の当番幹事が決まり、それからは先輩方や役員の方に助けられながら、高校時代に戻ったかのように楽しく準備を進めることが出来ました。今では、同期の者やクラブの先輩方とも連絡を取り合える様になり、30年目に当番幹事のお鉢が回ってくるのはなかなか良いタイミングだと思っています。今年も、高校時代に戻れる総会を楽しみにしています。

平成 21 年卒の新人の皆さん

来年　金蘭会は創立１２０周年を迎えます

金蘭会会長　安橋興二郎

明治24年に創立された金蘭会は、来年、創立１２０周年を迎えます。その記念事業のうち、現在、決まっている主なものを以下にご紹介します。

まず記念式典は、来年の10月16日（日）大阪のリーガロイヤルホテルで11時30分から、金蘭会の総会を兼ねて開催します。

また記念の会員名簿や記念誌も発行する予定です。さらに記念のクルージングを来年5月ごろに、3泊4日で神戸港から瀬戸内海を通るルートで計画しています。これは、110周年、115周年のとき、記念のオレンジツアーを実施しましたが、もう少し大きく豪華な船で、しかも、費用は20万円以下でできるようにしたいと考えています。

東京支部の皆様には、参加しにくい事情もあろうかと存じますが、今からご予定のうえ、ぜひともご一緒に１２０周年をお祝いくださいますよう、よろしくお願い申しあげます。

◎略歴
昭和34年　大手前高等学校卒
昭和38年34年　東京大学法学部卒業、大阪ガス（株）入社
平成9年　大阪ガス（株）取締役
平成10年（社）日本ガス協会出向 常務理事
平成12年　大阪ガス（株）常勤監査役
現 大阪ガス（株）社友
平成21年4月より、金蘭会会長

東京支部
同窓の人々

再生医療と臓器移植

フロンティア研究センター教授
赤池 敏宏 さん
（昭和40年卒）

肝臓や心臓などの臓器を臓器提供者（ドナー）から患者に移植する移植治療は、臓器提供者の慢性的な不足と言う問題を抱えている。日本ではドナー不足をいくらかでも補うために、生体の臓器を一部摘出して移植するといった生体移植も実施されているが、ドナーの健康な組織を傷つけることの是非が問われるといった課題がある。

そこで近年、ＥＳ細胞（胚性幹細胞）や京大山中伸也教授らの開発したｉＰＳ細胞（人工多能性幹細胞）などの細胞を出発点として細胞を増殖培養し、分化させて臓器（あるいはその一部となる組織）を作りだそうとする試みが非常に活発になってきた。（我が大手前高校出身の教授たちもいろいろな大学で活躍中である。）

ところで、ここで問題になるのが、移植が可能なほどの臓器を作るためには、非常に膨大な数の細胞が必要だということだ。例えばヒトの肝臓は２５００億個、ヒトの心臓は７００億個もの細胞で成立している。

筆者の東工大大学院生命理工学研究科の研究グループはＥＳ細胞（胚性幹細胞）とｉＰＳ細胞（人工多能性幹細胞）を膨大な数に効率よく増やせる細胞培養材料（E-カドヘリンキメラ抗体）を開発した。肝臓や心臓、腎臓などの移植用臓器や移植用組織を人工的に作り出すための重要な問題点を解決できそうな開発成果である。

1946 年静岡県生まれ。
大阪市立集英小学校／船場中学校を経て 1965 年大手前高校卒業
東京大学大学院工学研究科博士課程修了後、東京女子医科大学日本心臓血圧研究所助手、東京工業大学大学院生命理工研究科教授を経て現フロンティア研究センター教授
専門分野：再生医療、人工臓器、ドラッグデリバリー、バイオマテリアル

ワインが広げる人の輪

株式会社ラシーヌ代表取締役社長
合田康子 さん
（昭和49年卒　旧姓：野口）

ワインの仕入れに携わって、早二十年という時がたちました。この間フランス、イタリア、スペイン、オーストリー、ギリシャ、クロアチア、と優れた造り手を訪ね、ともに仕事をする機会にめぐまれました。選んだワインのタイプは、伝統派からモダン・スタイルまでさまざまですが、なによりもクオリティの高さと個性に焦点を合わせ、コンディションの維持に心血をそそいできたつもりです。

きっかけは夫の後押しでした。１９８７年、出張中のヨーロッパで日常的なワイン生活の一端に触れた夫は、「君の得意な食べることを楽しんでくればいい。今行けば、また行けるだろう。」と1年間のフランスでの生活を勧めてくれました。四歳と一歳の子供を連れての海外生活は、不安で一杯でしたが、楽しく充実した毎日でした。もともと、食べることに熱心な、典型的な大阪人の家庭に育ちましたから、季節の折々の味わいに心を躍らせ、市場通いとワインのある食卓を楽しみました。

「優れたワインには造り手の人となりが滲み出ており、一本のビンのなかには、さまざまな個性的な味わいとテロワール（味わいに表れる風土・土壌などの環境）だけでなく、造り手自身の哲学、経てきた人生とドラマが、生きている」と、考えています。深い信頼に基づく人の輪がワインを通してヨーロッパ各国に広がったことが、何よりの喜びです。これからも、良いワインと新しいワインを求めて旅を続け、ワインを通して幸せを運ぶお手伝いがができればと願っています。

（東京在住昭和49年卒学年の「ワインの会」は20回を超え、ワインを囲んで親しく交流が続いている。）

神戸海星女子学院仏文科卒。
'87 年、ボルドー大学テイスティング技術コースを受講。
帰国後、輸入会社にてワインの仕入担当となり、
03 年４月に「ラシーヌ」を設立。

Member's Voice Tokyo Kinrankai

高校生活を振り返る

牧野耕大（平成21年卒）

大学生になり、親元を離れ東京で一人暮らしを始めるようになり、早くも一年ほどたち、親のありがたみや家事の大変さなどを体感しております。今回はあっという間だった高校生活を振り返るとともに、最近の大手前事情について知っていただけたらと思います。

第一に思うことは、本当に良い友人に恵まれたということです。私はバスケ部に所属していたのですが、専門の顧問の先生がおらず、自分たちで考えたり、ＯＢさんたちの力を借りたりしながら協力し、特に同期の友人とはよい絆ができたと感じています。サッカー部や野球部も同じような状況で、みな同じように悩み、懸命に活動していました。クラスはクラスで個性的で賑やかな友人に恵まれ、日々楽しみながら切磋琢磨して勉学に励めたと思います。

勉学に対する環境もとても恵まれておりました。先生方がとても熱心に進路指導や志望校向けの発展的な補講を行ってくださり、学校の勉強にしっかりついて行きさえすれば、十分な学力がつくように配慮して下さっていました。加えて、学区改変により人気も高まり、進学実績も伸びていくだろうと思います。

他にも、英国派遣団として二週間ホームステイさせていただいたことや様々な行事など、多くの経験ができました。

今後は、金蘭会の一員として、素晴らしい大手前高校のさらなる発展に皆様とともに貢献できればと思います。

今までの支部総会

東京支部の総会及び懇親会は、今年で第 86 回となります。現在わかる範囲で表にしてみました。 幹事となる学年が工夫を凝らして準備をされ、それぞれに思い出が詰まっていることでしょう。幹事を機に同期会が発足することも多いのですが、同期生を集めるのも年々難しくなり、 総会のあり方も皆様と一緒に考えていきたいと思います。

年度	会場	講師・イベント（敬称略）	幹事学年(卒)
S55年	都ホテル		S24年
S56年	ホテルパシフィック		S25年
S57年	東商スカイルーム	水谷慶一の講演	S26年
S58年	東商スカイルーム	包丁実演、小泉氏(同期生)のフルート	S27年
S59年	築地スエヒロ	笈田敏夫のジャズ	S28年
S60年	虎ノ門パストラル	ブレイクダンス(同期生の子息)	S29年
S61年	椿山荘	橋本一雄校長	S30年
S62年	ホテルニューオータニ	樋口恵子　女の自立・男の自立	S31年
S63年	鉄鋼会館	日下公人　経済と人生哲学	S32年
H1年	川崎市産業振興会館	渡辺興亜（同期生）南極の話	S33年
H2年	学士会館	土肥義承（同期生）医学の話	S34年
H3年	横浜港クルージング	台風の為中止となる	S35年
H4年	如水会館	俵　萌子	S36年
H5年	銀座ハリウッド	桂歌之助(同期生)	S37年
H6年	半蔵門会館	荘村清志ギター演奏	S38年
H7年	スクワール麹町	堀田　力	S39年
H8年	かんぽヘルスプラザ東京	豊田利幸(同期生)	S40年
H9年	京王プラザホテル	笹本恒子(写真家)	S41年
H10年	帝国ホテル	竹村行雄(同期生)気象の話	S42年
H11年	第一ホテル東京	三田誠広（同期生、作家）	S43年
H12年	パンパシフィックホテル	ヴァイオリンとハープのデュオ(同期生)	S44年
H13年	赤坂プリンスホテル	小嶋勉(同期生)能の話と小鼓演奏	S45年
H14年	東京プリンスホテル	蓮月(同期生、僧侶)の法話とダンス	S46年
H15年	高輪プリンスホテル	水口博也（同期生）世界のオルカ	S47年
H16年	ホテルミラコスタ	福井俊彦（S29年卒）、ミッキー他	S48年
H17年	明治記念館	小川理子（S56年卒）ジャズとワイン	S49年
H18年	上野精養軒	久下真理（同期生）ピアニケーション	S50年
H19年	椿山荘	大手前今昔物語	S51年
H20年	グランドハイアット東京	管弦楽カルテット（同期生の子息）	S52年
H21年	如水会館	中村扶実（同期生）シャンソン	S53年

H3 年は横浜港のクルージングが台風のため中止となり、対応が大変だったと聞いています。 出席者全員への中止連絡や総会費の返金等幹事の皆様のご苦労もひとしおだったことと思われます。

Do Sport! 私の趣味

◎バレーボール

長谷川誠（昭和 48 年卒）

高校時代は男子バレー部。その後も会社のスポーツ大会やクラブ活動等でバレーボールを続け、今でも子供が通っていた地元小学校のＰＴＡバレーボールチームの選手兼監督・コーチとして 10 数年来現役でがんばっています。

◎マラソン

勝川佐江子（昭和 50 年卒）

マラソンが趣味と言えるほどのキャリアもタイムもないのですが、走るのは好き。自宅近くの駒沢公園をゆっくりジョギングしています。数年前から走ると膝に痛みを感じることがありマラソンは封印していたのですが、夫や友人に誘われるままに申し込んだ昨年の東京マラソンに追加当選。びっくり仰天した私はまず可愛いウエアとシューズを買って気分を高めました。夜は暗くて寒いという軟弱な理由から走るのは仕事が休みの週末のみ。平日はスクワットや腹筋など筋力アップに励みました。当日は多くのボランティアの方たち、沿道の声援に勇気をいっぱいもらって完走できました。膝の痛みもなく、9年前の NYC マラソンよりタイムもアップ。メトロを乗り継ぎ、煙草をすう暇もなく６ヶ所で応援してくれた夫に感謝、感謝です。次は二人でメドックマラソン！？皆さん、ご一緒にいかがですか？

◎野球

木内一喜（昭和 50 年卒）

五十の手習いで、何故か元水泳部の私が、草野球です！永年の虎キチですが、息子の少年野球を手伝ううちに、「観るのもええけど、ほんまにやったら百倍オモロイッ！」と勢いで結成してしまったのが、我がチーム Toranomons です。初陣は０－４５の惨状でしたが、メゲずに３年余、いまや地元リーグ TSL では、体力不足を経験、技（魔？）術で補う、一寸煩い存在として異彩を放っております。今季は母校同期のＥ選手入団も寄与し、虎視眈々と初制覇も狙っています。東京支部の皆様におかれましても、一寸覗いてみたろかという向きがございましたら、年齢性別経験等々問いません、是非お気軽にグラウンドまでご来臨賜りたく。（連絡先：toramons@zau.att.ne.jp）。

◎ミニバスケットボール

横尾幸信（昭和 50 年卒）

ミニバスケットボールクラブの監督・コーチを務めて１０年余り。毎週土曜日の午後、小学生と楽しく練習しています。低学年は 無邪気にボールを追いかけていますが、６年生にもなると大人顔負けのプレーをして驚かせてくれます。